

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102149		
法人名	医療法人 医誠会		
事業所名	グループホーム 茜		
所在地	熊本市 貢町135		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村報告日	平成21年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成21年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が6名と少ないので、家庭の雰囲気大切にしている。入居者が生活を楽しむことを最優先としている。

また、衰えた機能をリハビリテーションによって維持・回復させることも大切にしている。

併設のクリニックをかかりつけ医としている入居者が多く、症状に応じた受診を支援していることで、入居者の精神面を含めた体調管理が図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の一階部分がグループホームであり、二階が認知症専門のクリニックとなっている。専門医がすぐ傍にいて症状に応じた適切な治療が行われ落ち着きを取り戻した入居者も多く、精神面を含めた安心した体調管理が図られている。入居者と職員、入居者同士の支えあいの場面が多く見られ落ち着いた穏やかな生活が送られている。家族との連携も働きかけを支援し、良好な関係作りに努めている。今後は日々の生活の中で、役割や楽しみ事の支援や、できることを見つけより充実した生活を送れるような取り組みの継続が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に支え共に生きる その人らしくあったかい家族作り ターミナルに向けて家族に協力してもらう	法人の理念を元にホーム独自の理念を掲げ実践に向けて取り組んでいる。朝礼時に唱和し、申し送り時に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設と共に地域の運動会見学 老人会（西里デイサービスセンターのバザー）参加 職員が地域の方と共に河川の清掃等職員が参加している 地域のホタルを守る活動に賛同し、見学を行う。	近隣の散歩時や地域の行事（バザー、運動会、蛍見学など）に参加している。職員は地域の清掃活動や、法人主催の月1回の奉仕作業に参加している。隣家の住民とは安否確認をする関係である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	健康教室をDr、併設職員がしている。 民生委員、老人会の人たちに説明 クリニックを通して家族、地域に説明			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を出席者に回覧、説明してGHを現静に頂く様努力。 周辺の老人会、民生委員に実状を伝え、アドバイスを受ける。	定期的開催されており、ホームの入退居状況や活動報告、地域との交流報告、外部評価結果等が報告されている。委員との意見交換が行われている。委員である民生委員の方からの地域行事の情報が得られている。	家族の出席依頼に工夫検討を望みます。（同一の家族に頼るのではなく、多くの方の参加も望まれます。）	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括との連携 推進会議出席依頼説明 市の介護相談員受入	運営推進会議出席依頼や市の介護相談員受け入れなどにより、協力関係を築くように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関も施錠なし 職員の研修会の実施 家族、地域の人へ拘束の意味を説明	法人研修やホームでの研修により、職員は身体拘束に関して知識を習得しており、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	帰宅後、面会后、入浴時等に身体観察 家族の支援に努力した結果、帰宅しても 楽心で帰って来る様に成った。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例あり その後、月1面会あり 安心して生活して居られる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	人事等の変更、介護保険の更新・改定時家族会やみつぐ苑だよりで説明 各自面会時説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時の対話で相談にのっている ご意見箱設置	定期的にホーム便りを作成し、送付している。面会時や電話連絡の際や家族会開催時に意見や要望を聞く雰囲気作りに努めている。出された意見は早急に話し合い解決に向けて取り組むようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の勉強会時、職員の意見を聞きながら運営している 時折、懇親会を兼ねて実施	毎月ケアや行事についてのミーティングと勉強会を実施し職員の意見は、運営に反映するようにしている。1回は入居者についてのモニタリングや研修報告、行事などについて話し合いをしている。また、勉強会は、現状に合わせたテーマを取り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の年齢・体力・家族状況を把握し、無理なく就業できる状態を作るよう努めている 職場研修に参加		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会、同一法人のみつぐ苑内での研修に参加を促している 資格試験に向けて外部の研修も受けるよう促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加 交流を通じて情報交換をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に見学していただき、ご本人の問題点、家族の思い等を傾聴して利用者との仲を調整し不安の解消につとめている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の問題点を聞き取り、ケアプランの目標とし、全職員でケアに生かしていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランに取り上げ、状態観察後家族の了解を得て必要なサービスを提供する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時に各自に可能な部分受け持って清掃等を行う。家庭生活の延長であるGHの目標に向け本人の残存能力に合わせて家事、身の回り等援助しながら入居者全員の家族としての気持ちを持てるように援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例)任意後見制度の実行に依り、面会にくるようになっている 嫁姑の関係で苦しむ家族を援助して、本人と家族の関係が良く保たれる様援助している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人関係、お寺の僧侶等の出入りがあり、友人宅を訪問することもある(家族同伴で)	入居者の馴染みの関係を大切にした支援を心がけている。友人関係の継続支援では、来訪があったらこちらから出向いて訪問している。その時は、家族の協力を得ている。また、友人に会いに隣接事業所のデイサービスに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活、身体状況に合わせて、隣席の方を選ぶことで話合える状況を作っている(相互に助け合っている様子がみられる)でできない利用者に対してできる利用者が手伝っておられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院に入院し契約終了しても、見舞いに行き退院後の相談にのって安心できるよう支援		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、家族からの聞き取り 希望・意向があればできるだけ叶えられるように努めている	日頃の関わりの中から、希望や要望を聞くようにし、本人の意思を尊重しできるだけ沿うように支援している。	玄関が共有スペースから死角になっており、入居者の出て行かれるのが気づきににくいようです。常に所在確認の配慮が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや本人や家族からの聞き取り 職員や他の入居者との関りを通して、希望や意向の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者は夜勤者へ申し送りを行い、日勤帯の様子など情報交換を行っている 夜勤帯での異常があれば日勤帯に申し送りを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会や面会時に家族の希望や日常生活状態を話すように努めている サービス担当者会議、モニタリングを定期的に行っている	本人や家族の要望を取り入れ、計画を作成し、全職員で話し合い完成させている。計画見直しは、定期的にモニタリングを行い、「できること」を重要視し、できるだけ能力の低下をくい止めるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回は勉強会を行い、職員間で情報を共有しながら介護技術の向上に努め、実線や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科の訪問診療や2階にある認知症デイサービスと合同での外出や交流、みつぐ苑で行われる行事に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブの文化祭や地域の運動会の見学に参加したり、併設の介護福祉施設で行われる行事に参加し、楽しんでいただけるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックをかかりつけ医としている入居者が多く症状に応じた受診を支援することにより、精神面を含めた体調管理が図られている。定期的に歯科受診を行っている。他科受診についても入居前の医療機関を受診している。定期的に歯科受診も行っている	多くは併設のクリニックをかかりつけ医としている。入居前のかかりつけ医の医療を継続して受診している入居者もいる。受診後は家族、職員全員が情報を共有している。訪問歯科受診も定期的に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から異常の報告があり、受診の必要があれば併設のクリニックの看護師に連絡し受診に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーの提供 定期的に面会に行き、情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制の説明時に重度化や終末期について話し合っており、指針・同意確認書も準備している 終末期については、家族の協力を前提としており、その都度医師や家族と十分に話をするようにしている	入居時に重度化や終末期についての説明をしており、指針・同意書もいただいている。終末期に関しては家族の協力が必須であり、その説明など、かかりつけ医や家族、職員と十分に話し合い進めていくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回の勉強会や併設の介護福祉施設と合同に定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間・昼間を想定して地域の協力を得て非常サイレンも地域に鳴らしている 年2回の実施を行っている 管理会社の参加	入居者参加で昼間・夜想定の避難訓練を実施している。地域の協力を得て、非常サイレンを鳴らす訓練も実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮から記録は入居者から離れた場所で行い、入浴・排泄時の言葉かけにも配慮するよう周知徹底を図っている プライバシー保護のためのマニュアルも備え、掲示板にも掲示している	排泄や入浴の際にも一人ひとりに配慮した言葉かけや対応をしている。記録の管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人生の先輩として経緯を表し、入居者の思いを傾聴することにも配慮している 時に居室を訪ねて話しかけることで思いが聞かれることも多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者のペースに合わせて自由に過ごせるようにしている 散歩やリハビリはご本人・家族の希望にて毎日行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備は、自分でできる入居者にはやってもらっている 化粧など必要に応じて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好や味付けに注意しながら料理している 下ごしらえや盛り付け・片付けは入居者の大切な日課として定着しており、職員も雰囲気作りをしながら共に食事をとっている	献立は入居者の好みや季節感を取り入れ一緒にたてている。出来る入居者と共に調理の下ごしらえや準備、片付けなどを行う事が日常の暮らしとなっている。職員と入居者は一緒に作った料理を楽しみながら食し会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量のチェック、水分摂取量は全員で把握するよう努め、体調管理をしている 管理者が栄養士の資格があるため栄養のバランスには十分配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアの施行・誘導には職員全員で行っている 定期的に歯科衛生士による指導を行ってもらっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレに誘ってみたりトイレの場所が分かりやすくしている 全員の方にトイレで排泄できるよう支援している	排泄は、自立に向けた支援に心がけている。時間を考慮してトイレ誘導や声かけ、更に排便チェック表に記録し、食事にも配慮したケアをしている。夜間は、ポータブルトイレを使用する入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行っており、便秘気味の入居者に対しては腹部マッサージや水分を十分摂取していただき、朝から冷たい牛乳で対応している 自然排便に取り組んでいる。食内容検討。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	広くて明るい施設での入浴を希望される方は、現在2名の方が利用、4名の方はホームでの入浴を希望。当日の気分や体調を聞き、拒否のないように誘導。	最低週3回の入浴を実施している。法人施設のデイサービスでゆったりとした入浴の希望にも応じている。拒否の場合は時間を置いての声かけや誘導に工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感をとり入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている 不安のある入居者に対しては眠たくなるよう話を聞くように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	手渡し、必ず服薬を確認している 利尿剤服薬入居者で血圧の変化のある方に対しては、食後(2時間後)に血圧測定を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除・洗濯などの出来る事は役割分担している。トランプ・折り紙・言葉遊び・ボール遊びなどのレクリエーションを通じて楽しみごとの支援をしている。できる役割を評価し、自信を持っていただく様支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接の老健施設や2階の認知症デイサービスが日常の外出先となっている外出を希望される入居者は、家族に協力していただく。定期的に外出し、バスハイクやホテル見学などに出かけられるように支援している	法人施設内の売店へ買い物に行ったり近隣の散歩など、日常的に外出をしている。家族の同伴で本人の行きたいところに出かけるなど家族の協力を得た外出もある。また、季節に応じて花見や外食なども実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、お菓子やジュースを一緒に買いに行き、買物の楽しみも支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は居室でも話ができるように配慮し、手紙については切手購入、投函が自由にできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等適度な採光と温度調整がされ、四季の花を飾り、季節感を取り入れる工夫をしている	共有の空間には季節の草花が飾っており、ホーム周辺には、野菜や花が育てある。テレビを囲み、ソファ等のかつろげる場所で思い思いに過ごされている。	排泄面で自立した入居者が多いため、用足しがすまれた後のトイレの清掃等見回りの検討が望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と会わない人の座席を考え、独立しないよう配慮している。休憩を取る人、TVを見る人等、各自自由にしている。中庭を利用して話し合いをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者への馴染みの家具や小物を持ち込んでもらい、個別にくつろげる居室作りを支援している	入居前に使用されていた家具や生活用品が持ち込まれ、家族の写真や自身の手作りの作品など飾られている。入居者にとって自分らしい家具のレイアウトがされており、居室で過ごされる入居者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリー、トイレの表示等分かりやすく、低い位置にしている。園芸も庭に下りずベランダに立った位置で土いじりができるよう考えている。掃除用具、レクの用具等収納場所も分かり易くしている。		